

# 報 告 書

開 催 日 時	令和 7 年 11 月 4 日(火) 19 時 00 分 ～ 20 時 30 分		
自治協議会名	比自岐地区住民自治協議会	開催場所	比自岐地区 市民センター
出席議員	寺村 京子、上田 宗久 北山 太加視、百上 真奈		
	班 長	寺村 京子	記録・報告者 寺村 京子
参加人数	12 名		

## 【主な意見・提言等】

### 【地域の担い手不足について】

#### 1. 空き家の現状

- ・比自岐地区における空き家は、総戸数約 140 戸のうち 15 戸前後に達している。
- ・所有者の高齢化に伴い、居住者が転出・死亡した後も住宅がそのまま残されるケースが増えており、月に 1 回程度管理のために戻る世帯や、実質的に管理が困難となっている住宅も見られる。
- ・現在、空き家バンクを通じて 2～3 戸が移住者により活用されている一方で、未登録の空き家も多く、今後は老朽化や災害時の倒壊、防災・防犯面でのリスク増大が懸念されている。
- ・地域としては、空き家を単なる課題として捉えるのではなく、移住促進や新たな担い手確保につなげる視点が重要であり、空き家バンク登録の促進や、所有者への早期の働きかけ、出前講座などによる啓発が求められている。

#### 2. 農業の課題

- ・農業従事者の減少は深刻であり、地区内約 120 世帯のうち、現在農業に従事しているのは 15 世帯程度にとどまっている。
- ・地域では集落営農組織である「ひじきファーム」が中心となり、約 80～90 ヘクタールに及ぶ農地の維持管理を担ってきたが、従事者の多くは 70 歳前後と高齢化しており、今後 10～20 年先を見据えると、担い手確保に大きな不安を抱えている。
- ・一方で、地区外から若い従事者が数名参画していることは心強いものの、草刈りや日常管理まで十分に手が回らない現状もあり、作業負担は限界に近づいている。
- ・農機具の更新費用の高騰や、管理しにくい山間部農地の増加も重なり、地域の努力だけでは持続が難しい状況であることから、機械更新への支援や省力化機器導入への継続的な補助が必要との意見が出された。

### 3. 地域コミュニティの変容

- ・人口は過去 20 年で約 500 人から 300～400 人規模へと減少しており、少子高齢化の進行とともに、地域活動を支える担い手の確保が年々難しくなっている。
- ・一方で、比自岐地区ではこれまで、コスモス祭りやコスモス号の運行、獣害対策などを住民主体で継続してきた実績があり、地域の結束力は依然として高い。
- ・しかし近年は、農家・非農家の意識の違いや、自治会活動への関わり方をめぐる課題も顕在化しており、今後は新たに移住した住民も含めた「関わり方の共有」や、無理のない参加の仕組みづくりが重要であるとの意見が出された。

#### 【獣害対策に関する報告】

##### 1. 防止柵の老朽化

- ・獣害防止柵は設置から 10 年以上が経過しており、経年劣化が著しい。
- ・現在は全戸参加で補修作業に取り組んでいるが、対象範囲が広く、資材費や作業負担は地域の限界を超えつつある。
- ・令和 5 年度には、全戸一体での獣害対策の取り組みが評価され、国の表彰を受けるなど、先進的な事例として認められているが、継続のためには制度的な支援強化が不可欠である。

##### 2. 野生動物による被害

- ・シカやイノシシによる農作物被害が増加しており、生活圏への侵入も常態化している。
- ・農業生産への悪影響に加え、住民の生活安全や交通事故のリスクも高まっており、地域として強い危機感が共有されている。

##### 3. 人的資源の枯渇

- ・地区内に狩猟免許保持者はおらず、猟友会についても高齢化が進んでいる。  
罠の設置や捕獲作業には危険も伴い、個人の善意やボランティアに依存する体制には限界があるとの意見が出された。
- ・免許取得への補助や、獣害対策専門部署の体制強化、人員増強を求める声が上がった。

#### 【コスモス号運行に関する報告】

##### 1. 運行ルートの課題

- ・コスモス号は、地域住民が主体となり、伊賀市内でも先駆的に運行されてきたコミュニティ交通である。
- ・しかし、運行開始当初と比べ、通院先や買い物先、生活圏が変化する中で、現在の運行ルートが住民ニーズと合致しなくなっている。

- ・特に、ゆめが丘方面への乗り入れを求める声は長年にわたり出されており、運行協議会と市との間で協議を重ねてきたが、十分な進展が見られていないとの意見が出された。

## 2. 運営上の課題

- ・車両の維持管理費、保険料、車検費用などの固定費負担が大きく、利用者数の減少が運営を圧迫している。
- ・運転手は地域住民が担っており、待遇面でも大きな余裕はなく、将来的な継続に不安を抱えている。
- ・「使われてこそ続く交通」であるとの認識は地域内で共有されており、利用促進と運行形態の見直しが急務であるとの意見が出された。

## 3. 今後に向けた方向性

- ・地域として、利用実態やニーズを改めて整理し、具体的なルート案や時間帯の提案をまとめたうえで、市との協議を進める必要があるとの認識が共有された。
- ・議会としても、地域の長年の努力と積み重ねを踏まえ、行政との認識のずれを丁寧に調整しながら、実現可能な改善策を後押ししていく必要がある。

伊賀市議会議長 様

令和7年12月15日

上記のとおり、地域意見交換会の概要について報告いたします。

令和7年度 地域意見交換会 3 班

班長 寺村 京子